

令和3年度 司書・司書補講習 講師プロフィール

いしい 石井 大輔	聖徳大学文学部文学科准教授。千葉県船橋市生まれ。筑波大学大学院図書館情報メディア研究課博士後期課程単位取得退学。島根県立大学准教授を経て、現職。島根での9年間は図書館情報学の教育研究とともに、地方の図書館活動のお手伝いをしていました。
いとう 伊藤 民雄	実践女子大学図書館勤務。現場の経験から「情報サービス」をアドバイスできたらと思います。現在、出版学文献データベースを考案中です。主な著作は、『世界の出版情報調査総覧』、『インターネットで文献探索』2019年版。
うしぎき 牛崎 進	地元で雨にもマケズの暖簾の人として見ていた宮澤賢治の大きさに気づいたのは、大学時代に全集を買って読んでからでした。卒業後、大学で図書館を中心に勤務し、委託化が進んでいる図書館の将来を支える職員・スタッフのキャリア形成のためのNPOを立ち上げて10年経ちました。
おかだ 岡田 やすし 靖	体育会系の古い体質のスポ根お爺さんです。趣味は野球と料理です。料理でもいわゆる男の料理ではなく、主婦の料理を得意としています。授業の合間にそのようなお話も挟ませていただきたいと思います。授業は特に教科書は使用せず、こちらで用意した問題に解答していくという方法をとります。黒板の代わりに、パソコンの画面を使用します。
にしまさ 西巻 えつこ 悦子	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位修得（満期退学）。東京都立高等学校で国語科教諭・主幹教諭・司書教諭を勤める。現在は、秋草学園短期大学で児童サービス論を担当。幼児心理アドバイザー。早稲田大学・昭和女子大学兼任講師。
きど 木戸 ゆたか 裕	国立国会図書館に33年間勤務しました。在職中は、国会議員の立法活動を補佐する仕事を中心に、主として対面サービス業務に従事しました。講習では、国会図書館時代の経験を交えながら、できる限り利用者の立場に立ったサービスという視点でお話したいと思います。
とよだ 豊田 とおる 透	国立国会図書館に35年間勤務、その約半分を利用者サービス部門で過ごす。また図書館協力部門で「レファレンス協同データベース」、図書館職員を対象とする研修を主管。全国から集まった研修参加者のひたむきな姿勢が、今でも印象に残っています。
さかた 坂田 かずこう 和光	国立国会図書館に2019年まで在籍していました。国会サービスを所管する部署に長くいて、国会議員からの依頼に答え、報告書をまとめる仕事をしてきました。また、国会サービス以外の仕事として、児童サービス、資料のデジタル化、ダイバーシティなど、図書館サービスの変革期を実体験してきました。現・信州豊南短期大学言語コミュニケーション学科教授、日本女子大学家政経済学科非常勤講師。
せん 千 すげれつ 錫烈	幼少時代に、近所に公共図書館が開館したことが、私と図書館との長い付き合いの始まりでした。公共図書館での勤務を経て、現在は関東学院大学にて図書館司書課程を担当しています。また、市原市立中央図書館協議会委員を務めています。
たかなし 高梨 あきら 章	元関東学院大学兼任講師。大学図書館勤務歴39年。東京大学明治新聞雑誌文庫に出かけたとき、聖徳大学司書講習の教え子とめぐりあったのは、近年のとても嬉しい出来事でした。主な編・著作『高梨章書誌選集』（金沢文圃閣）、絵本『へへののもへじ』（林明子・絵 福音館書店）、『蒲原有明日記』（公孫樹舎）ほか。
たなべ 田邊 みのも 稔	N T T → N T T データ → 慶應義塾大学メディアセンター（図書館） → 国立情報学研究所（N I I）と渡り歩き、2013年に独立・起業（株式会社エムエムツインズ創業）。自称「パイレーツ・オブ・ライブラリアン」。学術情報やSNSの海を縦横無尽に駆け巡り、エビデンスに基づいた確かな知を届けたい。元筑波大学図書館情報メディア研究科非常勤講師。
とよよだ 常世田 りょう 良	浦安市立図書館長、同市生涯学習部次長、日本図書館協会事務局次長を経て立命館大学文学部教授。筑波大学大学院博士前期課程修了。オーテピア高知図書館サービス計画推進委員、堺市立図書館協議会会長、千代田区立図書館評議会委員など 著書『浦安図書館にできること』など。
にしむらみとし 西村美東士	若者文化研究所代表。東京都社会教育主事や国立社会教育研修所の時代に、図書館司書研修を企画、運営し、魅力ある図書館人に出会った。私のライフワークである青少年教育については、彼らをヤングアダルトとして尊重する図書館の支援理念から多くを学んだ。

<p>のぐち やすひと 野口 康人</p>	<p>筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了。情報学博士。現在、聖徳大学短期大学部総合文化学科准教授。日本図書館情報学会研究委員会委員。日本図書館協会図書館調査事業委員会委員。情報科学技術協会 ISO /TC46 国内審議委員会委員。</p>
<p>のなか ひろふみ 野中 博史</p>	<p>聖徳大学名誉教授。新聞社勤務、宮崎公立大学教授を経て、聖徳大学。著書・論文は『生命操作社会からの警告ーデス・コントロール』（三一書房）、『リスク情報における蓋然性と報道萎縮の考察』（宮崎公立大学紀要）、『報道による意見形成効果ー意見の寡占化とその修正ー』（同）、『高木兼寛論』（同）など。</p>
<p>ふじくら けいいち 藤倉 恵一</p>	<p>文教大学越谷図書館主任司書、筑波大学大学院人間総合科学学術院博士後期課程。日本図書館協会分類委員会委員。著書に『日本十進分類法の成立と展開：日本の「標準」への道程 1928-1949』（樹村房）『図書館のための個人情報保護ガイドブック』（日本図書館協会）など。</p>
<p>ふじもり さとみ 藤森 聡美</p>	<p>北欧の地域密着型図書館に注目しています。また、「発達・学習」について、習得手法の違いにより生じる差異を研究しています。郷土史調査では、地元信州の藩校時代からの蔵書群や、一藩士が個人収集した蔵書群及び目録（毛筆記載）を拝見し、感慨を覚えました。共著に『図書館情報学用語辞典 第5版』（丸善）など。</p>
<p>むらやま たかお 村山 隆雄</p>	<p>九州大学大学院理学研究科修士。1973年、国立国会図書館入館。閲覧、レファレンス、図書館協力、資料保存、国会サービス等に従事し、国際子ども図書館長、調査及び立法考査局長をへて、2009年定年退職。2010年、国際協力機構（JICA）のシニア・ボランティアとしてネパール国立図書館にて活動。2011～13年、日本国際児童図書評議会（JBBY）会長。2013年より、聖徳大学文学部文学科教授（図書館情報コース主任）。聖徳大学川並弘昭記念図書館・博物館長。</p>
<p>もり あかね 森 茜</p>	<p>文部省で社会教育・大学学術行政に従事、内閣府出向後、複数の国立大学で大学図書館の運営並びに大学事務局長など大学運営に従事。その間、図書館にかかわり続け、日本図書館協会理事長を経て、現在、顧問。</p>
<p>やまぐち ひろし 山口 洋</p>	<p>中央大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学（東洋史学）。中央大学、法政大学、東海大学、昭和女子学、駒澤大学他で図書館情報学・歴史学を教える。大学図書館勤務18年。日野市立図書館協議会委員。元町田市立図書館協議会委員長、同生涯学習審議会委員。町田の図書館活動をすすめる会会員。図書館友の会全国連絡会運営委員。近年の研究テーマは、住民自治と図書館。共著『情報資源組織論』（2020、東海大学）</p>
<p>わたなべ まきこ 渡辺真希子</p>	<p>神奈川県立こども医療センター臨床研究所図書室勤務。 筑波大学図書館情報メディア研究科博士前期課程修了（図書館情報学修士）。聖路加国際大学後期博士課程退学。専門は健康情報学。図書館制度・経営論については、これまでの公共図書館、大学図書館、専門図書館での勤務経験を活かし、図書館の行政における位置づけと図書館運営に必要な知見について分かりやすく論じます。</p>